

平成26年12月8日

川崎市長 福田紀彦様

川崎市事業評価検討委員会  
会長 佐土原 聡

平成26年度第1回川崎市事業評価検討委員会の審議結果について

川崎市事業評価検討委員会設置要綱第2条第1項の規定に基づき、社会資本総合整備計画の事後評価の内容について、本委員会において審議を行いました。

その結果を次のとおり意見を添えて具申します。

1 審議実施事案

- (1) 登戸・向ヶ丘遊園駅周辺地区都市再生整備計画
- (2) 小杉駅周辺地区市街地の活性化
- (3) 新川崎駅周辺地区市街地の活性化
- (4) 京浜臨海部地域への交通アクセスの改善
- (5) 利用しやすく安全で憩いとうるおいのある港づくり（防災・安全）
- (6) 災害に強く豊かな環境を育む安全・安心な地域づくり（防災・安全）
- (7) 多様な緑のネットワーク形成と人に優しいみどりのまちづくり
- (8) 小杉駅周辺地区市街地の活性化（防災・安全）

2 審議結果

評価結果及び事業をめぐる社会経済状況等を勘案し、1（1）から（8）までの8計画の事後評価の内容については、透明性、客観性及び公正さが確保されており妥当であると判断しました。

また、審議にあたり委員より出された意見を別紙のとおりまとめ、付記します。

## 付帯意見

**1 登戸・向ヶ丘遊園駅周辺地区都市再生整備計画**

計画の評価に当たっては、地区内の回遊性（歩行環境）の向上という視点に加えて、緑地が市街地にどのように混ざり合っているかという視点も取り入れるよう検討することが望まれる。また、まちづくり協議会については、開催回数以外の定性的な成果も取り入れていくことが望まれる。

**2 小杉駅周辺地区市街地の活性化**

計画の評価に当たっては、社会資本整備に関する進行性リスク（施設の老朽化等）や突発性リスク（災害等）を踏まえた中長期的なマネジメントの視点を取り入れるよう検討することが望まれる。また、地区内で今後整備・充実を図るべき必要な施設・機能についてアンケートを実施する場合には、なぜそのように回答したかについても併せて聴取して、今後の計画や取組に反映させていくことが望まれる。

**3 新川崎駅周辺地区市街地の活性化**

計画の評価に当たっては、市内における広域拠点、地域生活拠点等に対して、それぞれが有する機能や立地の違いなどの多様性に配慮した視点を取り入れるとともに、駅周辺の開発で増える床面積に基づく駅乗降客数の目標設定について検討することが望まれる。また、歩行環境満足度に関するアンケートを実施する場合には、こ線歩道橋整備に限定せず、計画地区全体を対象にしたものとするのが望まれる。

**4 京浜臨海部地域への交通アクセスの改善**

計画の評価に当たっては、企業の従業員送迎バスが路線バスに転換したことによる効果など、拠点間のアクセス時間短縮以外の効果にも着目した成果把握を行い、産業道路駅地下化後に整備される駅前広場のバスバースの適正な規模の検討につなげていくことが望まれる。

**5 利用しやすく安全で憩いとうるおいのある港づくり（防災・安全）**

東日本大震災の発生を受けた地震・津波の被害想定の見直しが行われるとともに、防災・減災に向けた対策が日々変化している状況を踏まえ、臨海部の民間事業者や行政関係者等の間で適切な情報共有を行うことが望まれる。また、想定外の災害が発生した際、関係者に混乱が生じるのを防ぐため、あらかじめ行動指針を準備しておくことが望まれる。

**6 災害に強く豊かな環境を育む安全・安心な地域づくり（防災・安全）**

計画の評価に当たっては、河川整備事業における治水安全の面に加え、自然環境や生態系への影響という視点を取り入れるよう検討することが望まれる。

**7 多様な緑のネットワーク形成と人に優しいみどりのまちづくり**

計画の評価に当たっては、生物多様性を踏まえた緑のネットワーク形成に関する視点を取り入れるよう検討するとともに、公園利用者へのアンケートを実施する場合には、多様な意見を聴取するため、実施日を工夫することが望まれる。

また、公園の防災的な機能を向上させて安全・安心を確保する取組を進めることが望まれる。

**8 小杉駅周辺地区市街地の活性化（防災・安全）**

陸上競技場をはじめとする等々力緑地内の各施設において、災害発生時における緊急物資の輸送・保管、救助・復興支援部隊の活動、避難者への対応などが円滑に行われるよう、防災計画の精度を高めていくことが望まれる。